

今週の聖句

わたしよりも優れた方が、後から来られる

マルコによる福音書 1章7節

ねらい

- ・ 洗礼者ヨハネが人々に悔い改めを勧めたのは、イエスさまを迎える準備をするためであったことを知る。
- ・ わたしたちも、イエスさまを迎えるための準備をしていけるようになりたい。

説教作成のヒント

- ・ 洗礼者ヨハネが、主の到来に備えて人々の心（信仰）を整えるために来たことに注目する。
- ・ クリスマスを迎える準備はいろいろある。それらを一つ一つ丁寧にを行うことによって、心の準備もなされる。

豆知識

- ・ 「主の道を整える」...当時、道は凹凸で、歩きやすく整備もされていなかった。そのような道を王や支配者が通るときには平らに均され、整備されたという。つまり、「主の道を整える」とはこの世の新しい王として、イエスさまを迎える準備をすること。
- ・ 「悔い改め」は心の向きを変えろという意味。自分自身に向かっている心を、神さまに向きかえること。
- ・ 「履物のひもを解く」のは、当時奴隷の仕事だった。それを解く値打すらもないとは、神のみ子イエスさまが、人間の主従関係の主以上の方であることを示す。

説教

いよいよ12月です。皆さんの周りでは、木にイルミネーションがつけられたり、お店のウィンドウにはプレゼント用の品が並んでいたり、クリスマスソングが聞こえてきたり・・・クリスマスの準備が段々整えられているのではないのでしょうか。みなさんのお家でもクリスマスの準備をしていますか？

今日の聖書の中には洗礼者ヨハネさんという人が出てきます。ヨハネさんはどんなことをしたでしょう？

すべての人が皆「悔い改める」ために、洗礼を受けた、と聖書に伝えられています。

悔い改めるとするのはちょっと難しい言葉かもしれませんが、どういうことでしょうか。それは、人々が自分のことばかり考えるのではなく、心をイエスさまに向けるという意味です。そのしるしとして、ヨハネさんは人々に洗礼を受けたのです。

そして、ヨハネさんはイエスさまのことを「わたしよりも優れた方が後から来られる」と言って、人々に紹介しています。救い主イエスさまという人は、神さまのもとから下って来て、わたしたちと同じ人間になった方です。人間となることでわたしたちの心の中の喜びも悲しみも、全

部知って下さる神さまなのです。

もし、わたしたちの心をすべて知って下さる神さまがいたら、わたしたちは決して一人ぼっちではありませんし、慰められ、励まされる思いがします。そのような方はイエスさまの他にはいません。だから、優れた人とヨハネさんは言っているのです。

皆さんは、今、学校や習い事、友達と遊んだり...など、毎日いろいろなことをして過ごしているかもしれません。また、クリスマスが近いですから、今年のプレゼントは何かな?と考えると、わくわくしているかもしれませんね。そのような普段の生活を送る中で、大切なことがあるのです。それは、クリスマスはイエスさまのお誕生日ですから、人間として生まれてくるイエスさまのお誕生日が近いことを忘れずに過ごしたいのです。

そのために、わたしたちにどんなことができるでしょうか。

お祈りをしたり聖書を読んだり、お家や教会をきれいに飾ったり、クリスマスカードを書いたりすることで、自然にイエスさまに心が向き、心の準備もなされていくことでしょう。

### 分級への展開

さんびしよう

\* 讃美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

107番

改訂31番

話してみよう

- ・ お互いの靴の紐を結び合ってみよう、どんな気持ちでした? ヨハネさんはどんな気持ちだったろう。
- ・ 今まで「悔い改めた」ことってある? それってどんなこと? どんなきっかけで? 話し合ってみよう!

やってみよう

ねらい 準備をして待つ。

- ・ アドベントカレンダー - を作る

ハート型の紙を用意しておき、そこに前週の生活の中で良かった事、嬉しかった事、いい事をした事、祈りなどをかく。(絵でも字でも ok)

用意しておいたツリーに(本物、紙、布何でも ok) 貼ったり吊るしたりする。

毎週、始まりや終わりにかけてツリーがハートでいっぱいになって

クリスマスが迎えられるといいですね!

暗唱聖句

わたしは荒れ野で叫ぶ声である

ヨハネによる福音書 1章 23節

ねらい

- ・ クリスマスまであと少し。イエスさまを迎える心の準備をしたい。

説教作成のヒント

- ・ ヨハネについて、ユダヤ人の指導者たちは彼が待望のメシアや預言者ではないかと色めき立つ。しかし、ヨハネ自身の自己紹介は、「わたしは荒れ野で叫ぶ声」というものであった。その声の内容は、「主の道をまっすぐにせよ」というものであり、これを伝えるために彼は遣わされた。

豆知識

- ・ エリヤは救い主が来るにあたり、到来を予告する、とされた預言者。イスラエルの中では、偉大な預言者として、あがめられていた。
- ・ 「あの預言者」というのは、モーセが「あなたの神、主はあなたの中から、あなたの同胞の中から、わたしのような預言者を立てられる」と約束した預言者。

説教

ヨハネさんという人が出てきます。この人はどんな人だったと思いますか？聖書には詳しく書かれていないのですが、どうやら、たくさんの弟子を持ち、聖書を教える、偉い先生だったようです。

だから、ユダヤのある人々からは、ヨハネさんは世の救い主である「メシア」ではないだろうか、とか、救い主の前に来ると言われていた「エリヤ」という偉い預言者ではないだろうか、とか、モーセが約束した預言者ではないだろうか、と、噂されていました。

けれども、ヨハネはどちらも違うと言います。そして、「わたしは荒れ野で叫ぶ声である」と面白い自己紹介をしています。

ヨハネさんは荒れ野で叫ぶ声?! どういうことでしょうか？

この時、ヨハネさんはユダヤの国の荒れ野で大声でこう叫んでいました。「イエスさまの(通って来られる)道をまっすぐにしなさい!」。この声を上げ、人々にイエスさまを迎える準備をするように勧めたのがヨハネさんなのです。

ここで、イエスさまの道をまっすぐにするというのは、本当の道路をまっすぐにするのではなく、わたしたちの心の中でイエスさまをお迎えする準備を整える、ということです。

ところで、皆さんは、お家にお客さんを迎える時に、お家の方が部屋を掃除したり、お茶を用意したり、いろいろな準備をしたいと思います。そうすれば、落ち着いてお客さんを迎えることができます。そうやって迎えられたお客さんの方も、相手の心遣いが嬉しく感じるものですね。けれども、もし準備をしていないところに、急にお客さんが来たら、誰でもあわててしまいます。すると、お客さんも戸惑ってしまうかもしれません。

そう考えると、誰かを迎える時にさまざまな準備を整えること、そして何より心の準備を整えておくことは、とても大切なことですね。

イエスさまをお迎えする時にも同じことが言えます。

イエスさまのお誕生をお祝いするもうすぐクリスマスがいつ来てもいいように、ツリーやクリスマス会の準備をすると同時に、今から心の備えをしたいと思います。「クリスマスにはイエスさまという神さまが人間として生まれて来て下さった」、ということを知って、そのイエスさまに今から気持ちを向けて過ごすことが大切なのです。

## 分級への展開

さんびしよう

\* 讃美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

61番

改訂130番

話してみよう

- ・イエス様をお迎えするために、私たちはどんな心の準備ができるでしょうか？  
それは具体的にはどんな行動になってあらわれるでしょうか？
- ・イエス様をお迎えするために、私たちの教会はどんな準備ができるでしょうか？  
アイデアを出し合って実行に移そう！

やってみよう

ねらい ガヤガヤとした中で声を聞き分けられるか。

ゲーム「ステレオコール」をする。

5, 6人で一斉に別々の物の名前(食べ物、花、アニメキャラなど固有名詞なら何でも ok)を叫び、見ている人が何を言ったか聴き分けて当てる。

また、一人で楽器や手拍子、音楽をかけて雑音を出しながら言葉を言ってもいい。

暗唱聖句

我らの歩みを平和の道に導く

ルカによる福音書 1章 79節

ねらい

- ・ イエスさまが平和の主であることを伝えたい。

説教作成のヒント

- ・ ザカリアは救い主の誕生を、喜びを持って人々に預言している。喜びの根拠は、イエスさまが平和の君であること。
- ・ 平和とは、神との和解であると同時に、すべての人との和解でもある。(コロサイ 1:20 参照)

豆知識

- ・ ザカリアは洗礼者ヨハネの父であり、エリサベトの夫。その職は「アビヤ組の祭司」(ルカ 1:5)であり、神と人々との間を仲介する役割を持っていた。妻エリサベト共に「神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった」(ルカ 1:6)と紹介されている。
- ・ ザカリアの預言は神をほめたたえる「讃歌」でもある。これは、マリアの讃歌(ルカ 1:46-55)、シメオンの讃歌(ルカ 2:29-32)と共に、ルカ福音書の3つの讃歌の1つである。

説教

もう目の前にクリスマスが迫っています。みなさんはどんな予定がありますか？プレゼントをもらうのを楽しみにしていたり、みんなでゲームやクリスマス会をしたり、いろいろ楽しいことが待っているという人も多いでしょう。皆さんの心には、今、喜びが一杯になっているかもしれませんね。

ところで、今日出てきたザカリアという人もとても喜んでいましたね。どうしてなのでしょう？

まず、はじめにお話ししたいことは、このザカリアさんという人のお仕事についてです。ザカリアさんは、祭司と言って神殿で神さまに犠牲をささげたり、お祈りをささげたり、神さまのみ心を尋ねたり...と神さまと人々の間をとりもつ人でした。そして、ザカリアさんは、いつも神さまのことを一番に考え、行動する、とても熱心な祭司だったのです。

ですから、天の神さまは、このザカリアを通して、「平和をもたらす救い主が生まれるよ」という大切なニュースを大勢の人々に伝えようと考えたのです。今日のザカリアさんの言葉がそれです。

この中で、これから生まれてくるイエスさまのことを「我らの歩みを平和に導く」(79)方だと言われていますね。

平和に導くというのは、どういうことでしょうか？戦争をしないということも平和と言いますが、イエスさまはもたらす平和はもっと身近なことで、みんながお互いのことを大切にす(愛

する)ということなのです。

皆さんは、きょうだいやお友だちとけんかをしてしまったことはありますか？その時のことを思い出してみてください。もし、そのけんかに勝ったとしても、心の中ではとげとげしい思いが残ったり、罪悪感を感じたり、嫌な気持ちが残ってしまったのではないのでしょうか。けんかで勝っても、わたしたちの心は決して平和にはならないのです。

でも、皆がお互いのことを大切にし、お互いを思いやることができるならば、そのようなことはありません。その人と一緒に楽しく過ごし、遊び、おしゃべりをする喜びが湧いてきます。そしてそのような時に、心の中に平和が訪れます。

イエスさまが神さまのもとから降って、世に生まれて来たのは、相手を大切にし、思いやり、赦すことでわたしたちみんなが平和に生きることができるためなのです。

イエスさまは、大人になって十字架にかけられてしまったことを皆さんも知っていると思います。その時イエスさまは、相手の悪口を言ったり、反抗しようとしたり、やっつけようとしたりしませんでした。それは、相手を思いやることを一番に考え、相手を赦したからなのです。そのようにイエスさまが赦して下さったから、わたしたちも誰かを赦すことができるのです。

今日の聖書に出てくるザカリアさんは、イエスさまが救い主として生まれて来ることで、みんながイエスさまをあがめ、赦す人にならなくていい、人を憎むよりも愛するようになっていける、そうして人々の心に平和がもたらされるようになる、そう期待して喜んだのです。

## 分級への展開

さんびしよう

\* 讃美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

31番

改訂34番

話してみよう

- ・ 今までで一番すばらしい「出会い」って誰との出会い？その理由は？
- ・ みんなの身近にあった「相手を大切にした」「相手を思いやった」「相手をゆるした」出来事(自分でも他の人でも)を発表しあおう。

やってみよう

ねらい 平和を考える。

国内外の情勢に目を向ける機会とする。

震災被災地、世界紛争、飢餓の苦しみ等写真・新聞記事などを資料として見せ話す。

「クリスマスだから考える、たくさんたくさん苦しんでいる人の事」を歌う。

クリスマスのうた 56 (キリスト教保育連盟発行)

暗唱聖句

今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった  
ルカによる福音書 2章 11節

ねらい、

- ・ イエスさまが飼い葉桶に生まれた物語を通して、神が低みにまで下られたこと、それによってすべての人を愛そうとされたことを伝えたい。

説教作成のヒント

- ・ 神の子イエスさまが人間として、かつ生まれる場所もないほどに、貧しい姿で生まれてきた。
- ・ 降誕を最初に知らされたのは、身分の低い( = 救いから最も遠い存在 )羊飼いであったこと。

豆知識

- ・ ルカは、まず、年代と場所を記す。これは、歴史の中にイエスさまが生まれたことを示す。現実の真ただ中に神の子は与えられるのです。

説教

今夜は、イエスさまが生まれた特別な日です。わたしたちだけでなく、世界中で、この神さまのみ子のお生まれが祝われています。今日の聖書のお話は、イエスさまがどのようにしてお生まれになったか、そして、イエスさまのお生まれを知った羊飼いたちが喜んだことが書かれていましたね。

ところで、皆さんが生まれる時のことを、お父さんやお母さんから聞いたことがありますか？  
きっと、家族の人にも、周りの人にも、何カ月も前から、「どんな子が生まれてくるのかな」、「名前を何てつけようかな」と、生まれてくるのを心待ちにされていたのではないかと思います。そして、生まれるときには、温かい病院のお部屋のベッドで、お医者さんや看護師さんにみ守られて、生まれてきたのではないのでしょうか？

イエスさまは神さまのみ子ですから、どれだけたくさんの人に大事にされて、どんな立派な場所で生まれて来たでしょう？

ところが、今日の聖書を見ると、お母さんのマリアさんが旅をしている途中で生まれました。ところが、マリアさんが「どこか泊まる場所を貸してください」と頼んでも、「部屋はもう一杯で空いていないよ」という冷たい返事しか返ってきません。困ったマリアさんたちは、仕方なく、牛や馬がいる、寒々しい家畜小屋に泊まり、草のベッドで生まれることになってしまいました。

何と云うことでしょうか！イエスさまは、神さまのみ子ですから、多くの人に待ち望まれ、宮殿のような立派なところでお生まれになってもおかしくないのに、周りの人からも大切にされず、家畜小屋で生まれたというのです。

どうして、天の神さまは、ご自分のみ子イエスさまをそのようにされたのでしょうか？

それは、どんな人でも、イエスさまに会いに来て、拝むことができるために、天の神さまはイエスさまをわざわざ、家畜小屋に生まれさせたのです。

もし、宮殿でうまれていたら、偉い人として育てられたら、みんながイエスさまにお会いできるとは限らないのです。

しかし、イエスさまはイエスさまが偉い人や立派な人だけでなく、当時、身分の低いとされていた人、悲しみや苦しみにくれる人、...みんなのための救い主として降られたのです。

実際に、イエスさまのお生まれが誰よりも早く伝えられたのは、王様や偉い人でなく身分の低いとされていた羊飼いたちでした。それは、イエスさまが、羊飼いたちを見捨てるのではなく、彼らを大切にされ、愛された証しなのです。

そして、このイエスさまを、羊飼いたちはどんなふうにお迎えしたのでしょうか？特別きれいな格好で迎えたわけでもなく、高価なプレゼントを持って迎えたのでもなく、埃にまみれた服で、何も持たずに、ただお生まれを喜んで、家畜小屋に駆け付けただけでした。

わたしたちのためにも、イエスさまは生まれてくださったのです。そして、わたしたちがイエスさまをお迎えするのに必要なのは、高価なプレゼントでもなく、特別なおもてなしでもない、また、この時だけ良い子にならなくてはいけないということでもありません。

必要なのはただ喜んでお迎えする、ということだけです。それは、イエスさまがわたしたち一人一人を、そのまま喜んで受け入れて下さる方だからです。それが、今このクリスマスに生まれた救い主なのです。

## 分級への展開

さんびしよう

\* 讃美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

26番

改訂70番

話してみよう

前の週に「自分が生まれた場所、時間、その時の様子など」を家族の人に聞いてきてもらう(フォーマットを作ってそれを配ってもよい)。

- ・ 自分の生まれた時の様子を発表しよう!
- ・ 赤ちゃんが生まれるためにはどんな準備が必要か調べてみよう。

やってみよう

ねらい 喜びを伝える。

ゲーム「伝言ゲーム」をする。

日課の中に出てくる言葉を使って行う。

カタカナの地名や人名など覚えにくい言葉や文章など対象年齢に合わせてキーワードを決める。



暗唱聖句

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた

ヨハネによる福音書 1章 14節

ねらい

- ・ 神であるイエス・キリストが人となって降ったことの恵みを伝えたい。

説教作成のヒント

- ・ 神が人になったことの恵みとは、つまり、天上の神さまの愛のみ心が、イエスさまを通してこの世にもたらされたこと。
- ・ 天の神さまは、遠い神さまではなく、わたしたちと同じ人となることで、近い神さまとなった。

豆知識

- ・ 「言」...端的に言えば神さまご自身、神の意志のこと。ここでは、神さまご自身として、あるいは神さまの意志として降られたイエスさまのこと。
- ・ 初めに言があった(1節)の「初め」とは、天地創造の時。創世記1章で、光あれ、と言われた神さまの「言」を想起させる。つまり、言は(神さまと同様に)天地創造に先だって存在する、とヨハネ福音書の冒頭では述べられている。
- ・ 闇と光...ヨハネ福音書では、罪の世を闇と呼び、それに対する神さまの救いとしてのイエスさまを光と呼ぶ。
- ・ 「肉」...ここでは、被造物としての人間のこと。つまり、14節ではイエスさまが人となったこと。

説教

クリスマスおめでとうございます！今日はイエスさまのお生まれを世界中の教会でお祝いをしています。わたしたちも、ここにいる皆でお祝いしたいですね。

今日の聖書はちょっと難しかったかもしれませんが、こんな話からしてみたいと思います。

みなさんの家では、台風などで夜、停電になったことがありますか？突然、パッと電気が消えて何にも見えずに、真っ暗になったかと思えば、外の風の音だけがゴーゴー響き、ちょっと怖い思いをします。そんなとき、懐中電灯を持ってきてそれをつけるのではないのでしょうか。するとどうでしょう。懐中電灯の光によって、部屋が明るくなり、周りの人の顔や周りにある物が見えるようになって安心できます。小さくても、光があるとホッとします。

さて、今日の聖書には、イエスさまのことを暗闇の中に輝く光だと言っていました。イエスさまは、わたしたちの世界や、心の中を照らす光みたいな方です。今、クリスマスを迎える皆さんの心の中は、楽しいことが一杯で喜びに満ちていたりして、気持ち「明るい」かもしれません。けれども一方で、わたしたちの心は、いつも喜びに満ちているわけではないのではないのでしょうか。例えば、友達や兄弟とけんかをしたり、勉強やスポーツを頑張ったのにあまり良い成績が残せなかったりすると、何となくしんみりとしてしまい、心が「暗く」なってしまうこともあるのではないのでしょうか。あるいは、もっとつらい経験をしたことがある人もいるかもしれません。そういう時には、一人で辛い思いを抱えてしまうこともあるかもしれませんね。

でも、どんな時もわたしたちは一人ではないのです。イエスさまが、心の奥までご存知で、ご自分のものとして一緒に背負ってくださるからです。そう思うと、少し心が元気に、そして明るくなりますね。イエスさまが光であるというのは、それだからなのです。

さて、今日の聖書にはイエスさまがお生まれになったことがどういう風を書いてあったでしょうか？気がつきましたか？実は、こう書いてあったのです。「言（ことば）は肉となって、わたしたちの間に宿られた」。ちょっと難しいですね。言とか肉とはどういう意味でしょうか？

言とは、わたしたちが話す言葉のことではなくて、神さまご自身のことです。神さまが天と地を造られた時に、「光あれ」と「言」を発したら、その通りになりましたね。そのように、聖書では「言」によって神さまの力は働くので、「言」は神さまご自身のこと、と考えてください。この言が肉となった、というのは、これも難しいですが、どんな意味でしょうか？実は、聖書では人間のことを肉という言い方をするので、この意味は、「神さまが人となって、わたしたちと同じ人間になってくれた」という意味なのです。それが今日お生まれになったイエスさまです。神さま、というところから遠くにいる方のような気がしてしまいますね。けれど、本当は神さまは、どんな時でも、わたしたちの近くにいて下さって、心を分かって下さろうとする方です。それほどに、わたしたちを大切に思い、愛される神さまなのです。そのために、み子イエスさまを、わたしたちと同じ目に見える人間として下さったのです。人となったイエスさまは、わたしたちと同じようにお父さんやお母さんや家族と一緒に過ごし、家に住み、毎日食事をし、友達や近所の人とかかわり、皆さんと同じように、勉強もしたことかもしれません。イエスさまは、私たちと同じように、喜び、悲しみ、時には苦しみを経験した神さまでした。

イエスさまは、一人ひとりの心をよく分かって、それを共にしてくださり、暗い心にも小さな光を灯してくれる方です。このようなイエスさまが「わたし」のために生まれてくださったことを喜びたいと思います。クリスマスおめでとうございます。

## 分級への展開

さんびしよう

\* 讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

28番

改訂76番

話してみよう

- ・ 誰かに言われて今でも心に残っている「美しい言葉」、自分が大切にしている「言葉」ってある？
- ・ 暗闇を作って、そこに明かりを一つ持って行こう。どんな気持ちになりましたか？その光はやさしかった？弱そうだった？怖そうだった？話し合ってみよう。

やってみよう

ねらい まさに言葉を肉とする。

ホットケーキでクリスマスケーキを作る。

何段でも、大きくても小さくてもOK。生クリームやフルーツなどで飾る。

チョコペンで、アイ・love・イエス・ひかりなどを書いて食べる。

クラッカーやチョコプレートに言葉を書いて飾っても可。